

Simakumayama-sakura-noh

島熊山桜能

平成25年4月25日(木) 午後六時半開演

「清経」

KIYOTUNE

形見ぞつらき 黒髪の





豊中市長
浅利 敬一郎

祝辞

島熊山桜能「清経」の開催を心からお慶び申し上げます。

平素「お能ってなあ〜に？」実行委員会の皆様には、日本の代表的な伝統芸能である能を通じて、本市の文化芸術の振興に格別のご支援とご協力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

貴実行委員会におかれましては、日ごろから、能を身近に感じてもらうため、体験講座などの活動を継続的に展開されています。この様なご努力によって、島熊山桜能が市民の皆様にも親しまれる催しとして定着したことは、誠に嬉しい限りです。

本市でも、「(仮称)文化芸術センター」の建設に着手するとともに、「文化芸術振興基本方針」を推進し、皆さまには今後とも一層のご支援ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

ご挨拶

本日は、島熊山桜能にお越しいただき誠にありがとうございます。皆様のご支援の元、桜能も第六回目を迎える事ができました。

地域密着型の催しとして、企画、運営して参りましたが、年を重ねるごとに、この催しの重たい認識をいたしております。出来るだけ低料金で質の高い舞台を観ていただき、能楽のおもしろさや素晴らしさを理解していただきたいと思います。

通常、能は能楽堂と言う専門のホールでの演能になるのですが、今回の様に野外で行う事により、もともと能が演じられていた時代の姿に立ち戻り、幽玄の世界を身近に感じていただければ幸いです。

今回もご協賛いただきました方々に深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

観世流シテ方

山本 博通

島熊山桜能

豊中市市長挨拶 浅利 敬一郎

狂言

蚊相撲

大名 善竹 忠重

太郎冠者 岡村 和彦
蚊の精 善竹 忠亮

清経

朗読

堀池 玲子

能楽

ツレ 林 本大

清経

シテ 山本 博通

ワキ 福王 知登

大鼓 山本 哲也
小鼓 清水 皓祐

笛 赤井 啓三

後見

武富 康之
赤松 楨英

地謡

金子 山本 昭
山本 文章
大槻 正蔵
山崎 道蔵

「清経」

清経は、平清盛の嫡男、重盛の三男。御曹司です。

まだ若き清経は平氏でなくば人ではなしと栄耀の限りを尽くした平家の滅びゆく時代に軍の将となりました。

敗走し東国へ落ちてゆく平家軍。都では残された妻子が気もそそろに便りを待ちます。

都で待つ清経の若き妻に、家臣の阿波の三郎が決死で清経の消息を伝えるに帰りました。清経の妻への思いを込めた遺髪を携えていました。戻るとの約束を違えた夫。

病死でもなく討ち死にでもなく白死した夫。裏切られた思いの妻は、遺髪を受け取らず涙にくれて眠ります。

夢枕に立った清経の霊は万感の思いを込めた遺髪を手放す妻に悲しみます。敗走する軍の前途に開く暗黒。恐怖。闘争のむなしさ。清経は妻に思いを伝えようとしています。

そして殺し殺される現世より、居場所を薬土に見出さんと笛を吹き今様を謡い念仏を唱えて入水したと。しかし、死後に堕ちた修羅道の苦しみも妻に見せます。

形見はつらき 黒髪の。

髪を残し思いを残した清経の霊は、妻の枕辺に戻り思いを告げ、末期に自ら唱えた念仏の功德で成仏して消えていきます。



山本博通

1961年2月22日生

島熊山桜能には、多大なご協賛を頂きました。
こうして、本年も皆さまのご支援をいただき
桜能を開催できましたことを心から感謝して
おります。

この桜能は、ボランティアでの運営に負っております。
何とぞこれからも温かいお心で、桜能をお育ていただけます
様に、切にお願い申し上げます。



観世流能楽師シテ方 日本能楽協会会員 重要無形文化財「総合指定」保持者

ご協賛いただいた皆様

竹内定夫公認会計事務所
(株) 塩谷硝子
(株) 日本エゼクターエンジニアリング
(株) サクラクレパス
(株) グッドライト ホンシュウ

竹内定夫様
塩谷眞治様
小中義博様
西村貞一様
本田良介様
(以上 大阪東 RC 会員)

辰野久夫様 (大阪東RC会員) 片山 勉様 (〃)
小中義博様 (〃) 藤村達夫様 (〃)
若林紀男様 (〃) 岡村剛行様 (〃)
新井信彦様 (〃) 三原敏彰様 (〃)
村田吉弘様 (〃) 高橋貞夫様 (豊中千里 RC 会員)
砂原和彌様 (〃) 中井達夫様
溝手敦信様 (〃) 中井朋子様

中村侃子様
内海興光様
河崎真理子様
谷澤巳知子様
服部恵理子様
十倉正平様

(順不同)

ありがとうございました。

「お能ってな〜に」

実行委員会からのお知らせ

「清経」は世阿弥の自信作の一つと云われ、山本師お氣に入りの演目の一つだそうです。

お互い思いあいながらもすれ違う夫婦の心の機微は滅亡の美学と絡み合い、能ならではの幽玄の世界に導いてくれます。

本作品は奥行きが深く、恒例の会議後の居酒屋談義でも「男心・女心」を中心に「道行(みちゆき)」「衆道」「横恋慕」等々の恋愛論や「美意識」「宗教観」まで、話の種は尽きず深夜にまで及びました。

ところで「亡霊」は室町時代から盛んに取り上げられたそうですが、十七世紀初頭につくられた「ハムレット」より二百年も早く創造されています。当時の日本の文化の高さが伺われますね。

「お能ってな〜に」実行委員会はこんな秀囲気の集まりです。あなたも参加しませんか？

「お能ってなあ〜に？」はご一緒に活動して下さる方を募集しています。
気楽で楽しい会です。一度覗いてみてください。

連絡先 06-6849-1258(山本) お待ちしています。